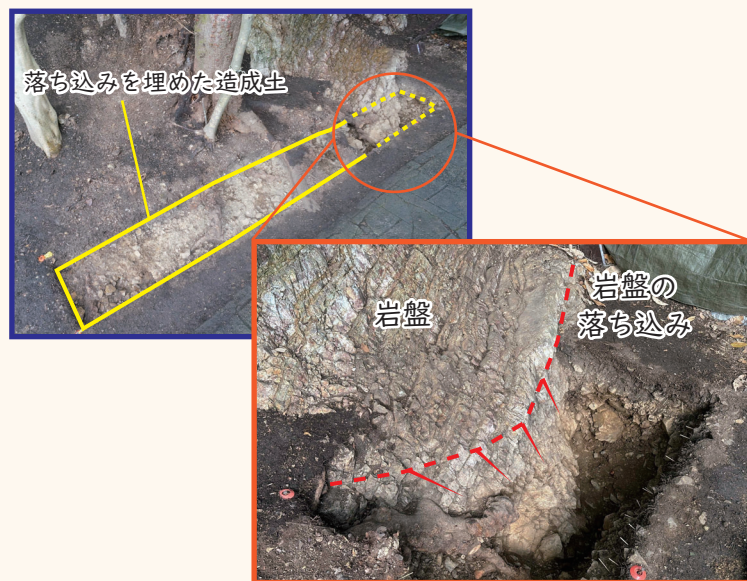


調査箇所②

一ノ門北側 ～豎堀の痕跡を発見～

これまでの調査により、一ノ門北側の東側斜面下方には豎堀があることがわかっていました。この豎堀が登城路まで伸びていたのかどうかを確認するため、令和4年度からこの場所の調査を進めてきました。



② 令和7年度調査

今年度の調査では、昨年度の調査と同様、豎堀の北側の落ち込みと、落ち込みを埋めて平坦にしている状況を確認しました。

2ヶ年の調査により、豎堀の幅は約8.5mであったことがわかりました。

岐阜城（稲葉山城）の登城ルートの変遷

一ノ門から豎堀までの構造は、美濃国守護・土岐氏の居城である大桑城の伝「岩門」に酷似していることから、豎堀の構築は斎藤氏の頃である可能性が考えられます。このときの登城ルートは、一ノ門を抜けた先の豎堀の手前で、太鼓櫓のほうへ登り、尾根上を通過して二ノ門へ通じていたものと考えられます。その後、信長の時代にこの豎堀を埋めて通路を造成し、現在のルートができたと考えられます。



▲豎堀の範囲（南東から）

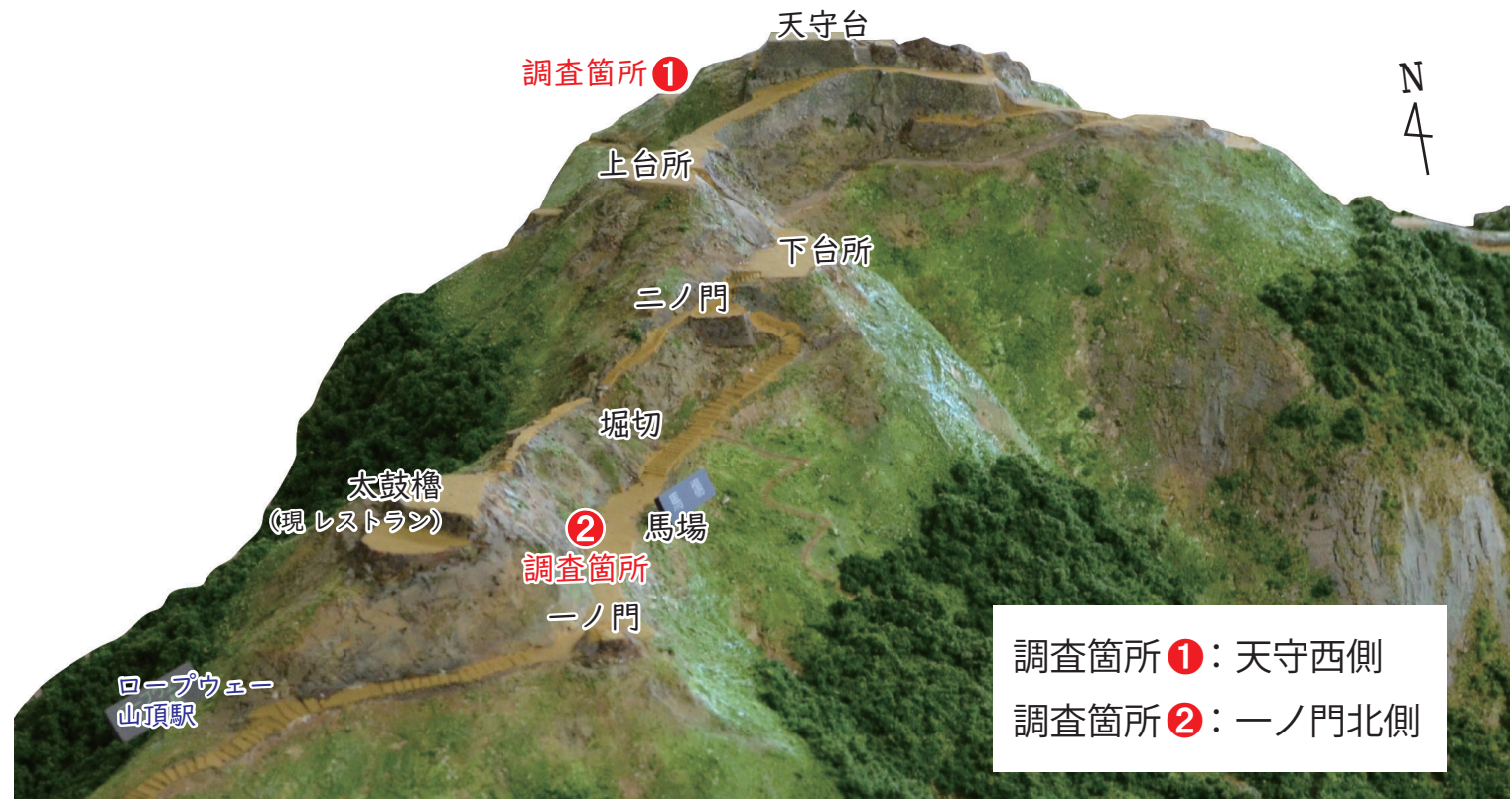
R724 岐阜市の日本遺産「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」は、優れた取組実績・計画で他のモデルとなる【日本遺産重点支援地域】に認定されました！

令和7年度史跡岐阜城跡発掘調査成果

今年度は、天守西側と一ノ門北側の2箇所で開催しました。

天守西側では3段目の石垣を発見したほか、天守台周辺では初めての礎石を発見しました。

また一ノ門北側では、昨年度に引き続き調査を行い、豎堀の痕跡を発見しました。



岐阜城 年表

天文8年頃	1539	斎藤道三が稲葉山城に拠点を置く	明治43年	1910	初代復興天守建設
永禄10年	1567	織田信長、稲葉山城を落とし、本拠とする	昭和18年	1943	初代復興天守、火事により焼失
天正4年	1576	織田信長、安土城へ移り、織田信忠が跡を継ぐ	昭和31年	1956	二代目復興天守再建
天正10年	1582	本能寺の変 織田信長・信忠父子、討死	平成23年	2011	山麓居館や山上部などを含めた金華山一帯が岐阜城跡として国史跡に指定される
天正12年	1584	池田元助、岐阜城主となる	平成27年	2015	『信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜』のストーリーが日本遺産第1号に認定される
天正13年	1585	池田輝政、岐阜城主となる			
天正19年	1591	豊臣秀勝、岐阜城主となる			
文禄元年	1592	織田秀信、岐阜城主となる			
慶長5年	1600	関ヶ原合戦の前哨戦で岐阜城落城			

調査箇所①

天守西側 ～天守台周辺で初の礎石・新たな石垣の発見～

今年度の調査では、『稲葉城趾之図』に描かれた4段の石垣のうち、未確認だった3段目の石垣の発見を目的に調査を実施したところ、平坦地西側斜面で石垣を発見し、北側斜面では石垣の背後に入れた裏込め礫が見つかりました。

さらに、石垣だけでなく、天守台周辺では初めてとなる、礎石も発見することができました。礎石は平坦地北側斜面に2石、平坦部に1石確認しました。

見つかった礎石と3段目の石垣は、その堆積状況から、同時期に構築されていることがわかりました。

3段目の石垣を発見！

見つかった石垣の石材は1石で、石材のサイズは、高さ40cm、幅70cm、奥行95cmでした。石材の背後には、裏込め礫が奥行1m以上入れられている状況も確認しました。



▲見つかった3段目の石垣（西から）



▲北側斜面で見つかった裏込め礫（北から）

『稲葉城趾之図』には、西側から北側にかけて石垣がし字に描かれています。北側斜面の調査区では、石垣の背後に入れる裏込め礫が見つかったことで、絵図のとおり石垣が配置されていたことが確認できました。

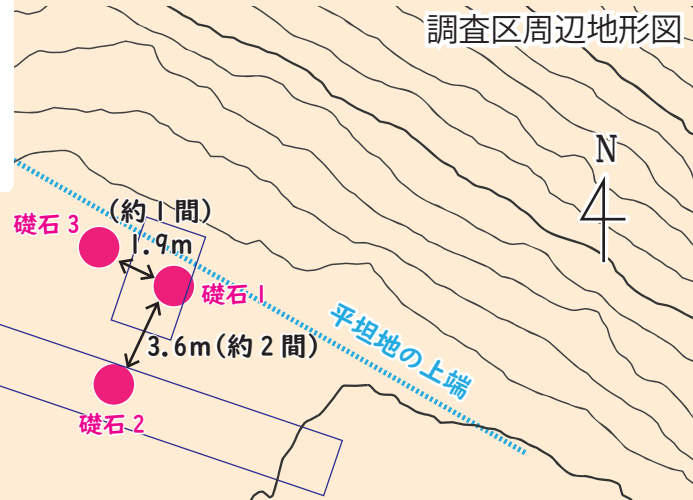
天守台周辺初の礎石を発見！

今回見つかった礎石は、北側斜面の礎石1・3、平坦部の礎石2で、すべて川原石です。礎石1と3の間は1.9m(約1間)で、この2石の並びは平坦地北側の上端とほぼ一致します。また礎石1と礎石2の間は3.6m(約2間)です。

天守台周辺での礎石の発見は初めてで、この平坦地に櫓もしくは塀といった建物があった可能性がでてきました。



▲調査箇所全景（東から）



▲北側斜面で見つかった礎石（北東から）



▲平坦部で見つかった礎石（東から）

『稲葉城趾之図』には、天守西側に4段の石垣が描かれています。

天守西側では、これまでの調査により、天守台の石垣の西面と北西角および南西角、2段目の石垣、4段目の石垣を確認していました。

今回の発掘調査で、3段目の石垣が発見されたことで、絵図のとおり4段であったことが確定しました。

これらの石垣は、麓から見上げた際には、あたかも一続きの高石垣のように「魅せる」意図があったと考えられます。



石垣（破線は想定線）
発見された礎石
発見された石垣



▲「稲葉城趾之図」に描かれた天守台周辺の石垣



▲1段目（天守台）・2段目の石垣（北西から）



▲3段目の石垣（北西から）



▲4段目の石垣（西から）

コラム

『稲葉城趾之図』には石垣が等間隔に描かれていますが、石垣と石垣の間の距離の記載はバラバラです。1段目と2段目の間は「九尺（約2.7m）」、2段目と3段目の間は「十一間（約19.8m）」、3段目と4段目の間は「七間（約12.6m）」と書かれています。

ちなみに、2段目の石垣から3段目の石垣までの実際の距離は約20mで、絵図の記載と一致していました。